資料５

検討会で検討すべき論点（案）

「防災気象情報の伝え方に関する検討会」で検討すべき論点（案）

課題（再掲）

・防災気象情報が必ずしも避難行動につながっていない

課題１　気象庁(気象台)が伝えたい危機感等が、住民等に十分に感じてもらえていない

① 防災気象情報の持つ意味や使い方が十分に理解されていない。

② 大雨時に気象庁(気象台)の危機感が十分に伝えきれていない。

論点・対応（案）

・災害への危機感が「我が事」として伝わるために

【論点１-①】 防災気象情報を避難等の防災対策により一層活用していただくための取組

対応(案)１-① 防災気象情報を緊急時に実効的に活用できるよう、平時からの「危険度分布」をはじめとした防災気象情報の理解促進の取組を一層推進すべきではないか。

この取組推進にあたっては、地域の住民が協力して避難行動を起こす「共助」の促進を意識し、市町村等とも連携して地域の防災リーダー等に対する取組を強化していくことが効果的ではないか。

【論点１-②】 大雨時に発表する防災気象情報等を、より切迫性があり危機感を共有できるような内容に改善するための方策

対応(案)１-② 災害の切迫性や「我が事感」がより明確になるよう、緊急記者会見などにおける呼びかけ方の工夫、ホームページやSNSを通じた情報発信の工夫に加え、都道府県等の関係機関からの意見も踏まえ、防災気象情報に用いる表現・内容等の改善など、より効果的に危機感を伝えられるような改善を進めるべきではないか。

「防災気象情報の伝え方に関する検討会」で検討すべき論点（案）

課題（再掲）

課題２　防災気象情報を活用しようとしても、使いにくい

① 土砂災害の「危険度分布」のメッシュは分解能が粗くて避難勧告等の対象エリアの絞り込みに使いにくい。

② 市町村等が避難判断に活用する際には、危険度分布に加えて、災害危険箇所等の情報も参照する必要があるが、これらの情報が様々な場所にあって、一覧性に乏しい。

③ 危険度分布の危険度(色)が変わっても、市町村等ではすぐに気付くことができないので使いづらい。

④ 危険度分布等の防災気象情報が、災害発生状況と対応していない場合が多い印象があり、どの程度信用してよいかわからない。

論点・対応（案）

【論点２】 防災気象情報をより一層活用しやすくするための情報提供等に係る改善方策

対応(案)２-① 土砂災害の「危険度分布」を高解像度化すべきではないか。

対応(案)２-② 大雨時において「危険度分布」やハザードマップ等の個別のページにアクセスしなければならない一覧性の乏しい現状を関係者と連携して改善できないか。

対応(案)２-③ 「危険度分布」の危険度の高まりを市町村など希望者向けに通知するサービスを開始すべきではないか。

対応(案)２-④ 都道府県等の関係機関と連携して防災気象情報の精度検証や発表基準の改善を適時に行い広く周知することで、信頼感を高めるべきではないか。

「防災気象情報の伝え方に関する検討会」で検討すべき論点（案）

課題（再掲）

課題３　気象庁の発表情報の他にも防災情報が数多くあって、それぞれの関連が分かりにくい（例えばどの情報が避難勧告に相当するかが分かりにくい）

論点・対応（案）

【論点３】各種の防災情報を効果的に分かりやすくシンプルに伝えていくための改善方策

対応(案)３　住民が危機感を感じ主体的に避難できるよう、各種の防災情報に利用者の行動に直結する分かりやすくシンプルなキーワードやカラーコードを付すことに向け、関係者と連携して検討を進めるべきではないか。